教職課程センター紀要　第３号　79-90ページ，2018年12月
Jour. Center Teacher Develop. Edu. Res., Daito Bunka Univ., No.3 79-90, 2018

論　　文

2018年度質問紙回答からみる本学学生の教職志望度の強さ

Why and How Strongly Motivated to Get a Teacher's License: A 2018 Survey of DBU Undergraduates

静　哲人，児玉　佳一

Tetsuhito SHIZUKA, Keiichi KODAMA

Key words: 教職志望度，教職志望度の変化，教員免許を取得する理由，質問紙調査

1. はじめに

大東文化大学教職課程センターでは 2018 年４月に，初めての試みとして教職志望度等に関する質問紙調査を全学的に実施した。本学に入学してきた学生がどの程度教員を志しており，その気持ちがどのような要因でどのように変化してゆくのかの実態を調査し，よりよい教職志望学生へのサポートのあり方を考える基礎データとするためである。

とりあえずは2018年４月時点での１年生，２年生，３年生，４年生を対象とした横断的調査であるが，同様の調査を今後も年度最初に実施することにより，同一集団がどのように変化してゆくのかを縦断的に追跡してゆく第一歩と位置づけている。

2. 調査の詳細

2.1 調査の対象

新入生に関してはまだ誰が今後教職課程を履修するか不明なため，教職課程を持つ全学科の新入生の全員を，２年生以上に関しては教職課程を履修している全員を調査対象とし，最終的に合計で 3224 名から有効回答を得た（１年生 n=1959，２年生 n=457，３年生 n=450，４年生 n=358)。

2.2 調査の方法

１年生については新入生ガイダンス中に印刷した質問紙に回答する方式を，２年生以上に関してはガイダンス後に各自 DB ポータルから回答する方式をとった。

表１　質問紙の全体構成

新入生用	２年～４年生用
Q1【志望度】	
Q2a【志望のきっかけ】	Q2b【志望度の変化】 Q2c【変化の理由】
Q3【志望の理由】	

2.3 質問項目の作成

質問項目の作成は，第一著者の静が中心となり教職課程センター専担教員である渡辺雅之准教授と仲田康一講師が協力する形で進め，教職課程センター管理委員会での検討も経て行った（第二著者の児玉は本学着任前だったためこの作業には加わっていない)。項目セットは入学して間もない新入生用と２～４年生用の２種類を作成した。

2.4 項目セットの構成

項目セットの全体構成を表１に示す。

【志望度】(現時点でどの程度教職を志望あるいは教員免許の取得を希望しているか）と【志望の理由】(現時点で教職を志望あるいは教員免許の取得を希望する理由はなにか）に関しては全学年に共通して尋ね，【志望のきっ

かけ】（そもそもなにを契機に教職に興味をもったのか）を新入生にのみ，【志望度の変化】（教職の志望度が本学入学後強まったのか弱まったのか）と【変化の理由】（変化したとしたらそれはなぜか）を２～４年生のみに尋ねる，という構成とした。（この他に取得希望の免許状の種類や採用試験の受験予定などに関する質問もあったが，これらについては本稿では扱わないこととする。）

なお，いずれの学年においても回答と学籍番号が紐づけできる形のデータ収集とした。次回以降の実施の際に個人別の変化の追跡を可能にするためである。

2.5 質問項目

最終的な質問項目は以下の通りである。

Q1【志望度】（全学年共通）卒業後の職業としてどの程度，教員を考えていますか？（次の５～０の６件法）

５：教員のみを考えている
４：教員が第一の志望である
３：第一ではないが教員もあり得る
２：教員は志望しないが免許だけは取る
１：免許だけは取るかも知れない
０：教員にはならず免許も取らない

Q2a【志望のきっかけ】（１年生のみ）教員免許取得を考えた理由として，以下はどの程度強いですか？（５：その通り～０：全く違う，の６件法）

A：幼稚園の先生から良い影響を受けた
B：小学校の先生から良い影響を受けた
C：中学校の先生から良い影響を受けた
D：高校の先生から良い影響を受けた
E：担任の先生から良い影響を受けた
F：授業で先生から良い影響を受けた
G：部活動で先生から良い影響を受けた
H：生活指導で先生から良い影響を受けた
I：進路指導で先生から良い影響を受けた

Q2b【志望度の変化】（２～４年生のみ）卒業後の職業として教員を志望している度合いは，入学時とくらべて変化しましたか？（５：かなり強くなった～３：変わっていない～１：かなり弱くなった，の５件法）

Q2c【変化の原因】（２～４年生のみ）入学時とくらべたとき，教職志望度が Q2b で答えたように変化した（しなかった）原因・理由について質問します。あてはまるものをすべて選んでください。

A：教職科目（教科教育法）の授業で，教職の面白さ・意義を感じた
B：教職科目（教職に関する科目）の授業で，教職の面白さ・意義を感じた
C：大学の授業以外で，教職の面白さ・意義を感じる体験をした（→詳細についての自由記述も求めた）
D：教育実習を体験し，教職の面白さ・意義を改めて感じた
E：教職科目（教科教育法）の授業で，教職の面白さを感じなかった
F：教職科目（教科教育法）の授業において，能力面での困難を感じた
G：教職科目（教職に関する科目）の授業で，教職の面白さを感じなかった
H：教職科目（教職に関する科目）の授業で，能力面で困難を感じた
I：自分の性格が教員に向いているか不安を感じた
J：免許取得のための単位がとれるか不安になった
K：教育実習の体験から，自分には向いていないと感じた
L：教員採用試験の難しさを知り自信がなくなった
M：教員になってからの生活に不安がでてきた（→詳細についての自由記述も求めた）
N：教職以外にやりたいことが出てきた
O：その他（→詳細についての自由記述も求めた）

ＤとＫについては教育実習に関連する項目であるが，調査時点で４年生も含めて教育実習経験者はいないため，分析からは除外した。

Q3【志望の理由】（全学年共通）将来の選択肢として教員を考慮に入れる理由として，以下はどの程度強いですか？（５：その通り～０：全く違う，の６件法）

A：人にものを教えることが好きだから
B：人と関わる職業だから
C：人を育てる教育という営みは重要だから
D：授業で児童／生徒を教えたいから
E：児童／生徒の人生に関われるから
F：顧問として部活動の指導をしたいから
G：教科の専門性を活かせる職業だから
H：安定した職業だから
I：比較的楽な職業だから
J：資格として役に立つかも知れないから
K：親などに免許取得を勧められているから
L：その他（→詳細についての自由記述も求めた）

表２ 学科・学年別の教職志望者およびコア志望者数と対在学者数比率（全学年）

	1年		2年		3年		4年		合計人数	
	志望者 (%)	コア (%)	志望者 (%)	コア (%)	志望者 (%)	コア (%)	志望者 (%)	コア (%)	志望者 (%)	コア (%)
日文	116(76.8)	41(27.2)	62(37.1)	36(21.6)	52(31.3)	26(15.7)	38(22.5)	19(11.2)	268(41.0)	122(18.7)
中文	54(73.0)	17(23.0)	24(32.4)	15(20.3)	43(43.4)	25(25.3)	22(27.8)	12(15.2)	143(42.9)	69(20.7)
英米	71(53.8)	14(10.6)	26(17.6)	14(9.5)	31(22.1)	18(12.9)	26(18.1)	9(6.3)	154(27.3)	55(9.8)
教育	113(91.9)	84(68.3)	98(85.2)	80(69.6)	113(88.3)	83(64.8)	102(82.9)	74(60.2)	426(87.1)	321(65.6)
書道	51(91.1)	15(26.8)	47(74.6)	21(33.3)	39(55.7)	15(21.4)	43(65.2)	13(19.7)	180(70.6)	64(25.1)
歴文	68(66.7)	19(18.6)	-	-	-	-	-	-	68(66.7)	19(18.6)
社経	92(43.4)	8(3.8)	26(11.0)	15(6.3)	17(8.4)	8(3.9)	8(3.7)	1(0.5)	143(16.4)	32(3.7)
現経	77(45.6)	1(0.6)	6(3.2)	5(2.7)	5(3.0)	2(1.2)	9(4.5)	1(0.5)	97(13.4)	9(1.2)
中語	19(25.3)	1(1.3)	2(2.5)	1(1.3)	2(2.1)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	23(6.9)	2(0.6)
英語	123(52.6)	27(11.5)	31(12.3)	12(4.7)	24(10.1)	15(6.3)	25(9.4)	13(4.9)	203(20.5)	67(6.8)
日語	55(79.7)	10(14.5)	12(16.7)	7(9.7)	9(13.2)	5(7.4)	14(21.5)	5(7.7)	90(32.8)	27(9.9)
法律	-	-	9(3.9)	3(1.3)	13(5.1)	8(3.2)	4(1.5)	1(0.4)	26(2.7)	12(1.2)
政治	90(56.3)	11(6.9)	15(9.9)	12(7.9)	9(5.5)	7(4.3)	15(8.5)	8(4.5)	129(19.8)	38(5.8)
国関	-	-	-	-	3(2.6)	2(1.7)	2(1.6)	0(0.0)	5(1.1)	2(0.4)
国文	-	-	-	-	3(2.8)	3(2.8)	2(1.9)	1(1.0)	5(1.2)	4(0.9)
経営	163(40.2)	6(1.5)	14(3.6)	6(1.5)	8(2.2)	2(0.5)	3(1.3)	2(0.9)	188(13.4)	16(1.1)
企業	-	-	-	-	-	-	4(2.3)	2(1.1)	4(2.2)	2(1.1)
環境	-	-	8(4.5)	3(1.7)	5(2.8)	2(1.1)	7(3.7)	2(1.1)	20(3.7)	7(1.3)
スポ	106(86.8)	34(27.8)	77(59.2)	46(35.3)	74(54.0)	47(34.3)	34(30.9)	14(12.7)	291(58.3)	141(28.3)
合計人数 (%)	1198 (47.4)	288 (11.3)	457 (16.9)	276 (10.2)	450 (16.6)	268 (9.9)	358 (12.8)	177 (6.3)	2463 (22.9)	1009 (9.4)

注１）志望度が０点以外の者を「志望者」，４～５点の者を「コア志望者」としている。

3. 結　果

まず質問項目ごとに記述統計を示し，大まかな傾向を描写する。その際，他大学で行われた教員志望学生への調査結果もいくつか参照しながら結果を解釈する。

3.1 【志望度】

Q1「卒業後の職業としてどの程度，教員を考えていますか？」に対する回答を基にした，学科・学年別の教職志望者およびコア志望者の数そして学年，学科ごとの平均人数と標準偏差を表２に示す（学科略称の「中文」は３年以上の「中国学科」をも含む。以下の表ですべて同様)。いずれの学年においても，４「教員が第一の志望である」または５「教員が第一の志望である」と回答した学生を，志望者の中でもとくに動機づけが高い志望者と判断し，「コア志望者」とした。

１年生に関しては０でない回答（１～５）をした学生を教職志望者（志望者）と数えた。２～４年に関しては教職課程の現履修者をアンケート対象としていたので有効回答者数を教職志望者と数えた。あくまで教職のガイダンスに出席して有効な回答をした学生数であるので，登録上の教職履修者数とは必ずしも一致しない。

志望者の合計人数を見ると１年が1198名（47.4%）と突出して多く，２年，３年がそれぞれ457名（16.9%），450名（16.6%）とほぼ並んでおり，４年が358名（12.8%）とやや少なくなっている。１年生が桁違いに多いのは，本アンケートの実施が入学直後であったため，まだ教職課程の詳細を理解していない段階での漠然とした希望も含んだ数であるためだと考えられる。本学では１年時の10月に教員免許取得のための履修料を払い込む。その段階でこれよりもかなり少ない数，おそらく現２年生，３年生と同じような数になることが予測される。２年生と３年生の人数がほぼ等しいことは，この450名前後というのが本学の教職履修者数のおおよそのラインと言えることを示している。これに対して４年生は，５月～６月に集中する教育実習を目前に控えた時期である。進路を

表３　教職を志望したきっかけの平均値および標準偏差（１年生のみ）

	教師の影響（校種別）				教師の影響（場面別）				
	A 幼稚園	B 小学校	C 中学校	D 高校	E 担任	F 授業	G 部活	H 生活	I 進路
日文	0.88(1.17)	1.68(1.60)	2.86(1.65)	3.83(1.26)	3.32(1.51)	3.62(1.34)	2.66(1.86)	1.59(1.58)	1.94(1.72)
中文	1.04(1.56)	1.54(1.82)	2.77(1.84)	3.68(1.33)	3.33(1.54)	3.27(1.53)	3.06(1.92)	2.04(1.60)	2.13(1.65)
英米	1.48(1.68)	1.99(1.76)	3.00(1.80)	3.18(1.67)	2.78(1.71)	2.85(1.70)	2.53(1.83)	1.88(1.71)	1.84(1.69)
教育	2.01(1.91)	3.21(1.70)	3.19(1.62)	3.13(1.59)	3.42(1.53)	3.05(1.44)	2.88(1.71)	1.77(1.53)	2.17(1.63)
書道	0.98(1.39)	1.31(1.73)	1.90(1.87)	3.57(1.59)	2.08(1.88)	3.02(1.70)	3.35(1.73)	1.38(1.58)	1.81(1.72)
歴文	1.32(1.47)	1.84(1.75)	3.02(1.68)	3.60(1.56)	3.42(1.59)	3.53(1.68)	2.71(1.91)	2.16(1.57)	2.50(1.63)
社経	1.34(1.41)	1.91(1.72)	2.56(1.71)	2.88(1.62)	2.58(1.66)	2.51(1.56)	2.85(1.61)	1.75(1.44)	2.01(1.56)
現経	1.24(1.58)	1.99(1.70)	2.67(1.50)	2.87(1.63)	2.91(1.63)	2.73(1.61)	2.80(1.59)	1.86(1.46)	2.03(1.55)
中語	1.00(1.52)	1.05(1.39)	2.26(1.89)	2.42(1.82)	2.42(1.87)	2.11(1.80)	1.95(1.90)	1.21(1.54)	1.74(1.80)
英語	1.30(1.46)	1.53(1.66)	2.71(1.85)	2.98(1.71)	2.88(1.80)	2.92(1.62)	2.43(1.88)	1.54(1.46)	1.88(1.58)
日語	1.26(1.63)	1.62(1.75)	2.83(1.76)	3.02(1.80)	2.92(1.78)	2.88(1.61)	2.25(1.82)	1.73(1.62)	2.42(1.75)
政治	1.36(1.49)	1.80(1.69)	2.48(1.63)	3.00(1.47)	2.66(1.54)	2.77(1.50)	2.51(1.70)	1.79(1.47)	2.17(1.60)
経営	1.36(1.63)	1.78(1.69)	2.36(1.74)	2.84(1.60)	2.56(1.75)	2.37(1.66)	2.64(1.81)	1.52(1.49)	1.68(1.58)
スポ	1.19(1.51)	1.77(1.73)	3.06(1.76)	3.56(1.43)	3.07(1.57)	2.97(1.56)	3.65(1.61)	1.97(1.51)	2.19(1.57)
平均	1.31(1.57)	1.88(1.77)	2.73(1.75)	3.20(1.59)	2.92(1.69)	2.91(1.62)	2.77(1.81)	1.73(1.55)	2.02(1.64)

注１）法律学科，国際関係学科，国際文化学科，企業システム学科，環境創造学科は１年生がいないため分析から除外している。
注２）未回答者がいるため，表１の志望者と若干回答数が異なる学科がある。
注３）括弧内は標準偏差である。

さらに見つめ直し，また教職以外の就職との掛け持ちを断念する学生が減った結果が３年時よりも約 90 名の減となっていると考えられる。興味深いのは１年生を含めて「コア志望者」の数は１～３年でほぼ等しく，270～280 名ほどであることである。そして４年生になるとコア志望者も 90 名ほど減っている。

以上を総合すると，全学科を合計して 450～460 名ほどが教職課程に登録し，その中の 270～280 名程がコアな教職志望者であるが，３年生から４年生にかけてその数が 90 名ほど減る，というのが本学の教職課程学生数の概況である。４年生にかけて教職志望者が減少することは，本学だけに限らず，例えば国立大学の教員養成課程（e.g., 姫野, 2013）や，私立大学の教職課程（e.g., 高橋・田中, 2017）でも報告されているものである。

学科別の状況をさらに把握しやすくするために，表２では各学科の当該学年の在学数（2018 年４月１日現在のもの）に対する人数比も括弧内に示している。全学年を通じて教職志望者の比率が最も高いのは，当然のことではあろうが教育学科（４学年平均して 87.1%が志望者，65.6%がコア志望者）である。次に高いのは書道学科（４学年平均して 70.6%が志望者，25.1%がコア志望者），そしてスポーツ科学科（４学年平均して 58.3%が志望者，28.3%がコア志望者）である。

3.2 【志望のきっかけ】

１年生のみに尋ねた Q2a「教員免許取得を考えた理由として，以下はどの程度強いですか？」の中で，項目 A～I について６件法（最高値５，最低値０）の回答について学科ごとの平均値と標準偏差を表３に示す。A～D は校種別の教師の影響を尋ねる項目，E～I は場面別の教師の影響を尋ねる項目であったため，分けて結果を解釈する。便宜的に理論的な中央値である 2.50 点以上を網掛けしてある。

校種別による教師の影響について，傾向として読み取れるのが，幼稚園（1.31）＜小学校（1.88）＜中学校（2.73）＜高校（3.20）の順に，影響を受けたとする数値が高くなっていることである。教職を志すきっかけとしては高校教員の影響が最も強いようである。全学科の平均値だけでなく，学科ごとに見てもほぼすべての学科でこの順序は変わらないが，唯一，教育学科だけは小学校の教師の影響の平均値が 3.21 点と最も高くなっている。小学校の教師に良い影響を受けたと感じたから小学校教員免許の取得可能な学科に入学したとも考えられる。例えば，富山大学での調査（広瀬・久保田, 2009）では，本学と同

様に校種別の恩師の影響を検討しており，希望免許校種に合致した校種の恩師の影響を回答する傾向を示している。

続いて場面別による教師の影響について，学校種別の比較ほど明らかな傾向を読み取るのは簡単ではないが，まず，（1）担任として接した教師，授業で接した教師，部活で接した教師の影響が，進路指導や生活指導を行った教師の影響よりも大きく，生活指導を行った教師の影響は最も小さい，ことが言えそうである。この大きな傾向と部分的に異なる学科の特徴が現れており，（2）教育学科は「担任」の影響が特に強かったようであり，（3）書道学科は「部活動」（書道部であろうか）の数値が特に高く，（3）スポーツ科学科は「部活動」（おそらく運動部であろう）の影響が特に強い。教職を志望するきっかけとして「恩師」の影響が強いことを報告する研究は多い中（e.g., 姫野, 2013; 島田, 2015; 高橋・田中, 2017; 若松・古川, 1997），本調査ではさらに場面別の恩師の影響にまで踏み込んでおり，結果として，担任，授業，部活動といったより密接な関わりのあった教師からの影響を特に受けていることを示している。

ただし，項目ごとの標準偏差をみると約1.5〜1.8点とばらつきも大きく，志望のきっかけは個人差も大きいことがわかる。

3.3 【志望度の変化】

2〜4年生に尋ねたQ2b「卒業後の職業として教員を志望している度合いは，入学時とくらべて変化しましたか？」に対する回答の学科別（3学年は合体）の分布を表4に示す。回答は3が「変わっていない」であり，1が「かなり弱くなった」，5が「かなり強くなった」である。便宜的に学科ごとに最も回答者が多かったセルを網掛けしている。有効回答1264人全員の平均値は3.28である。この平均値の95%信頼区間は，3.21—3.34であり，平均値が3.0より高いことはほぼ間違いがない。すなわち全体的な傾向としては，本学の教職課程を履修している過程において，教職志望度が入学時とくらべて，わずかながらではあるが，より高くなったといえよう。中でも中国文学科や教育学科，政治学科，国際関係学科や国際文化学科，経営学科は志望が高く変化した傾向が強い学科である。

しかし全体で97名が1「かなり弱くなった」，247名が2「弱くなった」と回答していることも事実である。特に英語学科は変化度2（やや弱くなった）が一番多くなっている。その要因を次節3.4に求めたい。

表4　教職志望度の入学後の変化の分布（2〜4年）

	1	2	3	4	5	平均(*SD*)
日文	15	29	45	28	35	3.26(1.28)
中文	6	16	23	22	22	3.43(1.23)
英米	7	20	30	15	11	3.04(1.14)
教育	20	57	81	84	71	3.41(1.20)
書道	18	33	37	21	19	2.92(1.26)
社経	3	10	16	13	9	3.29(1.15)
現経	4	3	6	2	5	3.05(1.47)
中語	0	0	3	1	0	3.25(0.50)
英語	5	22	21	18	14	3.18(1.20)
日語	5	6	11	7	6	3.09(1.29)
法律	1	6	11	7	1	3.04(0.92)
政治	0	6	12	10	11	3.67(1.06)
国関	0	1	0	2	2	4.00(1.22)
国文	0	0	2	1	2	4.00(1.00)
経営	1	4	7	9	4	3.44(1.08)
企業	0	0	3	1	0	3.25(0.50)
環境	1	3	10	5	1	3.10(0.91)
スポ	11	31	59	50	34	3.35(1.14)
計	97	247	377	296	247	3.28(1.20)

注1）未回答者がいるため，表1の志望者と若干回答数が異なる学科がある。

3.4 【変化の原因】

2〜4年のみに尋ねたQ2cに対する回答の集計結果を表5に示す。Q2cは，教職志望度が入学時と比べて強まった，あるいは弱まった理由として当てはまるものを，15種類の要因の中から複数回答可で列挙するという形式の設問である。15種類の中で志望度が強まった要因に分類できるA, B, Cと，弱まった要因の中で大学の授業に直接関係すると分類できるE, F, G, H, J，大学授業に直接は関連しないと判断できるI, L, M, Nにそれぞれ分けられる。O（その他）はこの集計からは除いてある。

表5では，当該の要因があったと回答した人数（回答母数）に対する当該学科の割合を示している。件数ではなく学科ごとの人数に対する比率を表示したのは，回答母数が大きく異なる学科間の比較をしやすくするためである。見やすさのため，便宜的に20%以上の比率のセルに網掛けしてある。

表5左側（強めた要因）を見るとAおよびBがほとんど網掛けになっており，平均比率を見るとAが23%，Bが35%である。つまり志望度が強まった場合のそのほとんどが教科教育法の授業，教職に関する授業において教

表５ 志望度の変化の要因の学科別回答母数に対する該当比率（２～４年）

	強めた要因			弱めた要因（授業に関するもの）					弱めた要因（授業以外のもの）			
	A 教科 面白	B 教職 面白	C 授業外 面白	E 教科 非面白	F 教科 困難	G 教職 非面白	H 教職 困難	J 単位 不安	I 性格 不向	L 教採 自信無	M 生活 不安	N 教職 以外
日文	11%	38%	13%	3%	7%	5%	14%	22%	22%	15%	11%	16%
中文	22%	35%	11%	4%	6%	7%	12%	21%	21%	11%	7%	11%
英米	12%	25%	10%	5%	8%	4%	17%	22%	22%	13%	10%	22%
教育	34%	42%	20%	4%	13%	5%	12%	27%	27%	11%	9%	10%
書道	12%	22%	10%	2%	7%	8%	13%	34%	34%	22%	12%	22%
社経	25%	29%	10%	0%	4%	4%	12%	16%	16%	8%	8%	10%
現経	25%	25%	10%	0%	5%	10%	10%	20%	20%	0%	5%	30%
中語	25%	50%	0%	0%	25%	0%	25%	0%	0%	25%	0%	0%
英語	29%	36%	14%	3%	28%	4%	14%	29%	29%	16%	10%	21%
日語	20%	29%	14%	3%	3%	3%	3%	17%	17%	9%	11%	26%
法律	8%	19%	15%	4%	4%	4%	0%	12%	12%	19%	4%	23%
政治	13%	49%	8%	3%	0%	0%	10%	18%	18%	10%	8%	15%
国関	40%	60%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%
国文	20%	40%	20%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%
経営	32%	32%	8%	8%	0%	4%	8%	8%	8%	20%	4%	16%
企業	25%	50%	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	0%
環境	30%	30%	0%	5%	10%	5%	45%	35%	35%	10%	0%	30%
スポ	26%	38%	10%	3%	9%	4%	6%	12%	12%	13%	8%	20%
平均比率 (*SD*)	23% (9%)	35% (11%)	13% (6%)	3% (2%)	10% (9%)	5% (3%)	12% (11%)	22% (11%)	22% (11%)	13% (7%)	9% (4%)	16% (9%)
合計人数	291	444	167	42	121	60	146	281	281	169	110	208

注１）未回答者がいるため，表１の志望者と若干回答数が異なる学科がある。

注２）歴史文化学科は１年生のみであるため，分析から除外している。

職の意義や面白さを感じたからである。そしてそのような回答がなされる頻度は教科教育法よりも教職に関する科目においてのほうが高い傾向がある。授業以外で教職の意義や面白さを感じたという回答もある程度見られた。学科別に見ると唯一法律学科のみ，網掛けがなく，志望度を強めた要因にチェックした学生が比較的少なかったことがわかる。

表５中央（弱めた要因：授業関連）を見ると，志望度が下がった原因が授業に求められる場合には，J「免許取得のための単位がとれるか不安になった」からという回答が最も多く，22%にあたる 281 名が選択している。次に多いのは H「教職科目（教職に関する科目）の授業で，能力面で困難を感じた」と F「教職科目（教科教育法）の授業において，能力面での困難を感じた」であり，それぞれ 12%にあたる 146 名，10%にあたる 121 名がこう回答している。これに比べると E「教職科目（教科教育法）の授業で，教職の面白さを感じなかった」，G「教職科目（教職に関する科目）の授業で，教職の面白さを感じなかった」に対する回答は比較的少ない。すなわち授業に関連して志望度が下がるのは，能力的に困難を感じたり，単位の取得に不安を感じたりという場合が主であると言えよう。教科教育法の授業に困難を感じた比率が最も高いのは英語学科の 28%である。同じ英語でも英米文学科のほうは 8%とかなり差があるのは興味深い。同様の免許教科を取得する学科同士でもこのような相違が示されている点は，今後の検討に向けて示唆に富むものである。

表５右側（弱めた要因：授業以外）を見ると，最も多

表6　学科ごとの現在教職を志望する理由の強さの平均値および標準偏差（全学年）

	A 教える好き	B 人と関わる	C 教育重要性	D 授業教えたい	E 人生に関わる	F 部活動指導	G 専門性活かせる	H 安定職	I 比較的楽な職	J 資格役立つ	K 親の勧め
日文	3.2(1.3)	3.3(1.4)	3.4(1.3)	3.2(1.4)	3.2(1.4)	2.5(1.7)	3.2(1.4)	3.2(1.3)	0.9(1.0)	3.1(1.6)	2.2(1.7)
中文	3.5(1.3)	3.3(1.4)	3.6(1.3)	3.4(1.4)	3.4(1.3)	3.2(1.6)	3.5(1.2)	3.6(1.4)	1.2(1.4)	3.4(1.4)	2.6(1.7)
英米	3.3(1.2)	3.3(1.4)	3.4(1.3)	3.3(1.3)	3.1(1.3)	2.7(1.6)	3.2(1.3)	3.3(1.3)	1.3(1.2)	3.2(1.5)	2.3(1.8)
教育	3.6(1.2)	4.0(1.1)	4.0(1.0)	3.6(1.2)	3.9(1.1)	1.8(1.6)	2.4(1.4)	3.3(1.4)	0.9(1.1)	3.0(1.5)	1.9(1.7)
書道	3.2(1.2)	3.2(1.3)	3.3(1.2)	3.2(1.3)	3.0(1.4)	3.0(1.5)	4.1(1.0)	3.3(1.3)	1.2(1.3)	3.5(1.3)	2.6(1.8)
歴文	3.3(1.4)	3.4(1.4)	3.2(1.4)	3.3(1.5)	3.3(1.3)	2.7(1.6)	3.7(1.4)	3.5(1.5)	1.5(1.4)	3.8(1.3)	2.7(1.8)
社経	3.0(1.5)	3.1(1.5)	3.0(1.6)	2.9(1.6)	2.9(1.6)	3.0(1.7)	2.8(1.5)	3.4(1.3)	1.3(1.3)	3.2(1.6)	1.9(1.8)
現経	2.8(1.5)	2.7(1.4)	2.8(1.4)	2.7(1.4)	2.6(1.4)	2.6(1.6)	2.7(1.4)	3.4(1.3)	1.3(1.3)	3.4(1.3)	2.0(1.7)
中語	2.6(1.6)	2.9(1.6)	2.9(1.7)	2.9(1.7)	3.0(1.7)	2.4(1.7)	2.9(1.6)	3.8(1.3)	1.3(1.2)	4.2(1.0)	3.0(1.9)
英語	3.2(1.4)	3.3(1.4)	3.2(1.5)	3.2(1.4)	3.2(1.5)	2.5(1.7)	3.1(1.4)	3.2(1.4)	1.1(1.2)	3.3(1.4)	2.2(1.8)
日語	2.8(1.4)	3.1(1.7)	3.1(1.6)	2.7(1.6)	2.7(1.7)	2.0(1.7)	2.9(1.5)	2.9(1.6)	1.1(1.2)	3.2(1.5)	2.2(1.9)
法律	3.6(0.9)	3.7(1.0)	3.7(1.3)	3.4(1.2)	3.5(1.4)	3.4(1.6)	3.0(1.3)	3.1(1.2)	0.9(0.9)	2.8(1.2)	1.8(1.9)
政治	3.0(1.4)	3.1(1.5)	3.3(1.5)	3.0(1.5)	3.0(1.5)	2.9(1.7)	3.0(1.4)	3.3(1.3)	1.2(1.2)	3.2(1.5)	2.1(1.8)
国関	3.6(1.5)	4.6(0.5)	4.0(1.2)	3.6(2.1)	4.6(0.5)	3.0(1.9)	3.2(1.9)	3.6(2.1)	1.2(1.1)	3.6(2.2)	3.4(2.1)
国文	3.8(1.3)	4.2(1.3)	4.0(1.2)	2.8(1.3)	4.4(0.9)	3.0(2.0)	3.2(1.8)	3.0(1.9)	0.4(0.9)	2.0(1.4)	1.0(1.4)
経営	2.8(1.5)	2.6(1.5)	2.6(1.5)	2.4(1.5)	2.2(1.4)	2.5(1.7)	2.4(1.6)	3.3(1.6)	1.4(1.3)	3.6(1.5)	2.1(1.8)
企業	4.3(1.5)	3.8(1.0)	4.0(0.8)	3.3(1.7)	3.5(0.6)	4.8(0.5)	2.8(0.5)	3.8(1.0)	1.5(1.3)	3.8(1.0)	3.5(1.3)
環境	3.1(0.5)	3.2(1.2)	3.7(1.3)	3.5(1.3)	3.6(1.2)	2.8(1.9)	2.7(1.4)	3.5(1.3)	0.9(1.0)	3.7(1.3)	2.8(1.7)
スポ	3.6(1.2)	3.6(1.2)	3.6(1.2)	3.6(1.2)	3.4(1.3)	4.0(1.3)	3.7(1.2)	3.6(1.2)	1.4(1.3)	3.3(1.4)	2.3(1.7)
計	3.3(1.3)	3.4(1.4)	3.4(1.4)	3.2(1.4)	3.2(1.4)	2.7(1.7)	3.1(1.4)	3.3(1.4)	1.2(1.2)	3.3(1.5)	2.2(1.8)

注1）括弧内は標準偏差である。

いのは，I「自分の性格が教員に向いているか不安を感じた」（22%にあたる281名）である。次に多いのはN「教職以外にやりたいことが出てきた」（16%にあたる 208名）である。L「教員採用試験の難しさを知り自信がなくなった」もある程度原因となっていることがわかる（13%にあたる169名）。学科ごとの特徴としては，文学部に属する5学科全てでI（性格が向いているか不安）の選択率が20%を超えている点は興味深い。また，他の要因の選択率は小さい中でLの教採に向けた自信の無さを選ぶ学科（中国語学科，国際関係学科，経営学科，企業システム学科）が散見されている点も重要である。

以上をまとめると，志望度が高くなったのは第一に教職に関する科目の，次いで教科教育法の授業において教職の面白さや意義を感じたためであり，低くなったのは，授業関係では授業内容が面白くないというよりも自分の能力に不安を感じたり単位が取得できるか心配になったりしたからであり，授業以外では第一に自分の性格が教員に向いているか自信がなくなったためであり，第二に将来の選択肢として教職以外が視野に入ってきたからであると推測される。

本調査では，時期的な関係で教育実習による影響を検討できていない。しかし，他大学の調査では教育実習による影響も検討されており，教職キャリアの選択に大きな影響を及ぼすことが示されている（e.g., 姫野, 2013; 若松, 2012）。本学でも，教育実習に関するデータ収集可能性を検討していく必要があるだろう。

3.5 【志望の理由】

表6に，Q3（将来の選択肢として教員を考慮に入れる理由）に対する1～4年生の回答をまとめた。A～K の理由に対する6件法（最高値5，最低値0）の回答の平均値を示している。便宜的に理論的中央値＋1点である3.5点以上を網掛けにした。

全2396名の平均値は，B「人と関わる職業だから」，C

表７　学年ごとの現在教職を志望する理由の強さの平均値および標準偏差（全学年）

	A 教える好き	B 人と関わる	C 教育重要性	D 授業教えたい	E 人生に関わる	F 部活動指導	G 専門性活かせる	H 安定職	I 比較的楽な職	J 資格役立つ	K 親の勧め
１年	2.9(1.4)	3.0(1.5)	3.0(1.5)	2.9(1.5)	2.7(1.5)	2.5(1.7)	2.9(1.5)	3.3(1.4)	1.4(1.3)	3.5(1.4)	2.3(1.8)
２年	3.5(1.1)	3.5(1.2)	3.7(1.2)	3.7(1.2)	3.5(1.2)	3.0(1.8)	3.2(1.4)	3.4(1.3)	0.9(1.0)	3.1(1.5)	2.1(1.8)
３年	3.7(1.1)	3.8(1.1)	3.9(1.1)	3.6(1.1)	3.8(1.1)	2.9(1.7)	3.3(1.3)	3.4(1/3)	1.0(1.1)	3.2(1.4)	2.2(1.8)
４年	3.5(1.3)	3.8(1.2)	3.8(1.2)	3.3(1.3)	3.7(1.3)	2.6(1.8)	3.1(1.4)	3.2(1.5)	0.8(1.1)	2.9(1.6)	2.0(1.7)
計	3.3(1.3)	3.4(1.4)	3.4(1.4)	3.2(1.4)	3.2(1.4)	2.7(1.7)	3.1(1.4)	3.3(1.4)	1.2(1.2)	3.3(1.5)	2.2(1.8)

注１）括弧内は標準偏差である。

「人を育てる教育という営みは重要だから」が 3.4 点と最も高く，A「人にものを教えることが好きだから」，D「授業で児童／生徒を教えたいから」，E「児童／生徒の人生に関われるから」，G「教科の専門性を活かせる職業だから」，H「安定した職業だから」，J「資格として役に立つかも知れないから」が B，C に続く。これらの項目も B や C との間に実質的な差はないと考えられる。これらに比べると，F「顧問として部活動の指導をしたいから」は 2.7 点とやや低い。K「親などに免許取得を勧められているから」は 2.2 点であり，I「比較的楽な職業だから」は最低値の 1.2 点である。教職が楽だという認識はほぼないと言ってよいであろう。

学科別には，まず，教育学科とスポーツ科学科において高数値の志望理由が多い。国際関係学科，国際文化学科，企業システム学科，環境創造学科の数値も高いが，これらの学科は回答母数が小さい。すなわち少数のコアな教職志望者が教職を履修していると解釈できる。他には，全体としてはそれほど高くない F（部活動指導）についてスポーツ科学科は 4.0 点と際立って高い。また G（教科の専門性を活かせる）に関して書道学科（4.1 点）スポーツ科学科（3.7 点）と高い平均点を示し，学科の特性を表していると言えよう。G は，歴史文化学科もほとんど同じくらい高い（3.7 点）が，今回の回答は新入生のみであり，来年度以降の回答傾向を待って解釈したい。

さらに表７には学年別の志望理由の数値をまとめた。１年生は教職課程履修前のため，幼稚園から高校までの被教育体験をベースに志望理由を回答していると考えられる。一方で２～４年生は，実際の教職課程を履修する中での志望理由となるだろう。表６と同様に，便宜的に理論的中央値＋１点である 3.5 点以上を網掛けにした。

１年生と２～４年生で特徴的な相違は，A「人にものを教えることが好きだから」，B「人と関わる職業だから」，C「人を育てる教育という営みは重要だから」，D「授業で児童／生徒を教えたいから」，E「児童／生徒の人生に関われるから」，J「資格として役に立つかも知れないから」において見られた。A～E については，教師の立場から見た教職の魅力であるため，実際に教職について学んできた２～４年生が強く志望しやすい理由であると考えられる。一方で被教育体験をベースに回答している１年生には，こうした魅力については，まだあまり実感がないのだと考えられる。一方で J については，１年生には教員免許が資格として役立つという認識がある一方で，２～４年生にはそういった認識は低い傾向が読み取られる。その他，網掛けはされていないが，I「比較的楽な職業だから」も１年生に比べて２～４年生は低い傾向にある。教職課程を履修していく中で，教職の実態を理解していったためであると考えられる。一方で興味深いのは，G「教科の専門性を活かせる職業だから」については，学年による目立った相違は見られない。この点は，教科教育法を考える上でも，今後の方向性に示唆的である。

3.6 【志望度】と【志望の理由】の関連

以上の記述統計の結果を踏まえて，全学年に回答を求めた Q1【志望度】と Q3【志望の理由】の関連について検討したい。学年が上がるにしたがって，実際に教職を志望するかどうかの選択に迫られる。記述統計では，学年ごとの志望理由の特徴も示したが（表７），この志望理由と志望度がどのように関連し，さらにそれが学年ごとによってどのように異なるか明らかにする。

図１は，学年ごとの志望度と各志望理由のバブルチャートである。バブルチャートの円が大きいほど，縦軸（志望度）と横軸（各志望理由）に対応する数値の人数が多いことを示す。また，各バブルチャートの下には Spearman の順位相関係数を示している（Spearman の順位

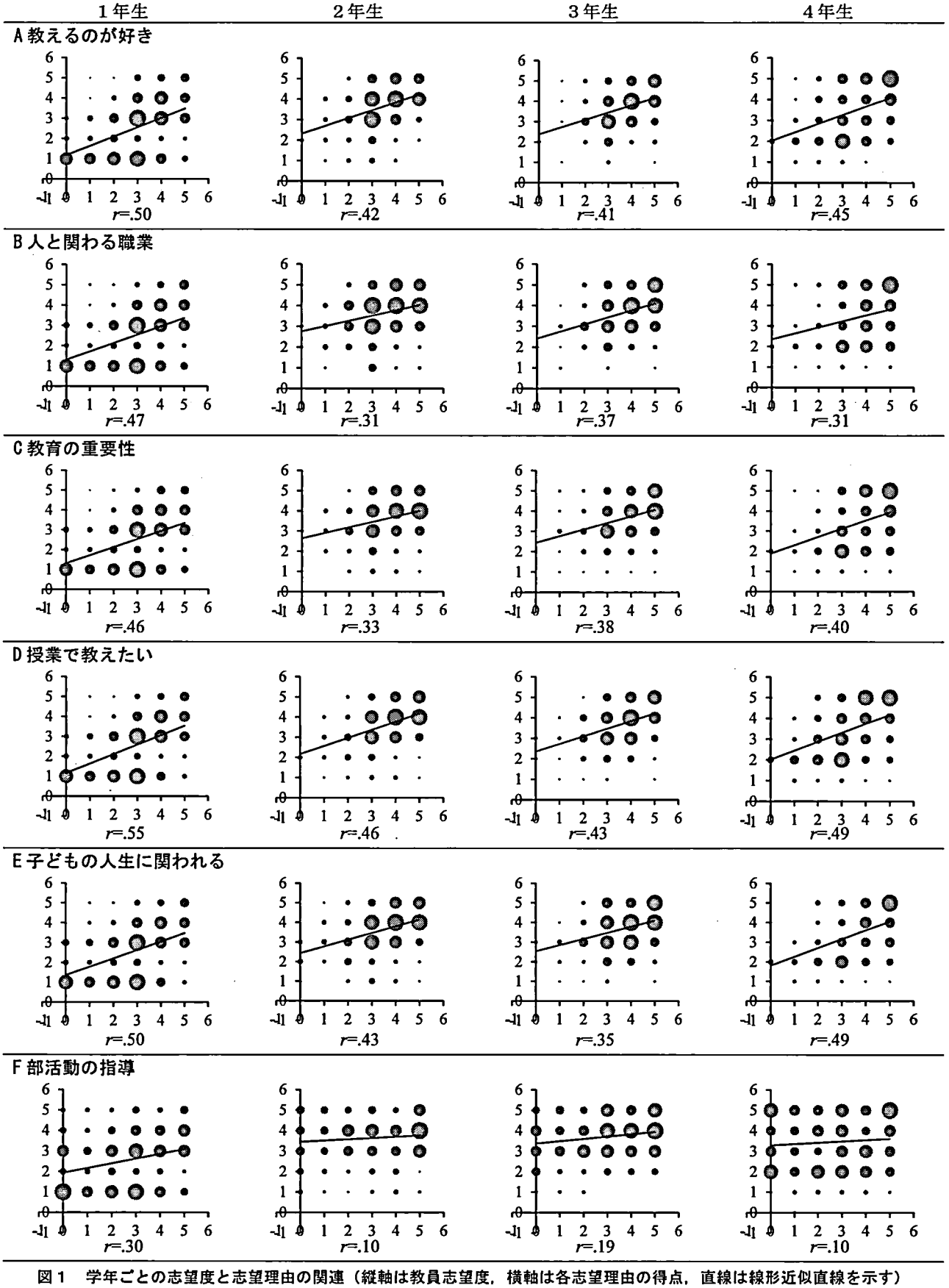

図1　学年ごとの志望度と志望理由の関連（縦軸は教員志望度，横軸は各志望理由の得点，直線は線形近似直線を示す）

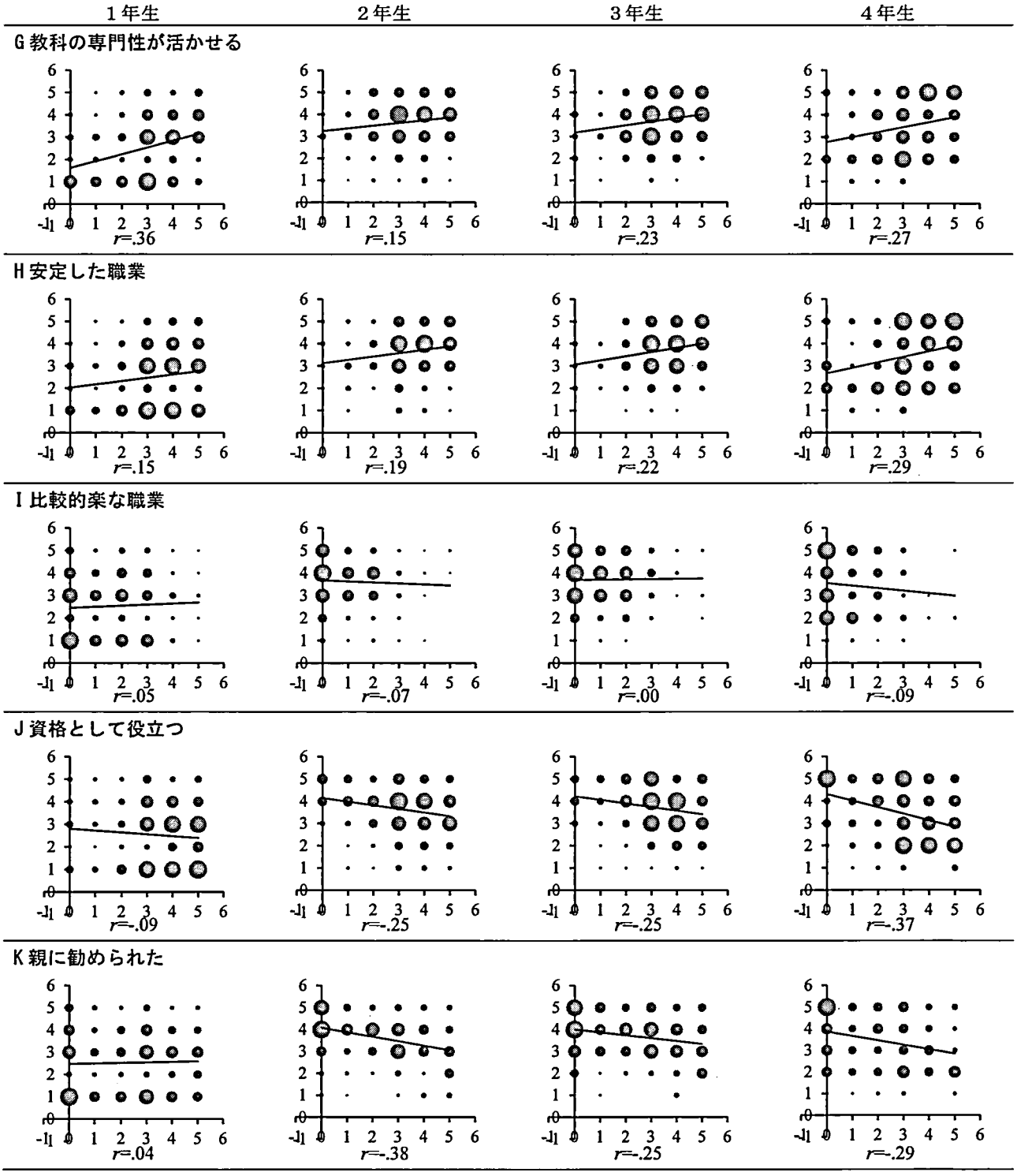

図１　続き（縦軸は教員志望度，横軸は各志望理由の得点，直線は線形近似直線を示す）

相関係数は r_s で示されることが多いが，便宜的にここでは r で示している)。縦軸は志望度の数値，横軸は各志望理由の数値，直線は線形近似直線を示す。

全体的に，志望度において１や２の層が１年生の回答は散見され，２・３年生では少なく，４年生においてまた現れる傾向にある。また，志望理由についても，１年生はH，I，Jを除けば志望理由の分布が広範囲にわたっているが，２・３年生ではFやJを除いて値の幅が小さく，４年生になるとまた分布の幅が広くなる。これは，１年生は強い教職志望度ではない層も回答者として分析したことや，教職課程履修前であることから多様な志望度と志望理由によって回答されたのに対し，２・３年生

はある程度教職を就職候補の１つに見据えている履修者が回答していることによる相違であると考えられる。４年生は就職活動の中で教職以外の道を選択したことが原因であると考えられる。

以降，志望度と志望理由の関係について見ていく。志望度と中程度以上（$r>.30$）の正の相関関係を示した志望理由は，A「人にものを教えることが好きだから」，B「人と関わる職業だから」，C「人を育てる教育という営みは重要だから」，D「授業で児童／生徒を教えたいから」，E「児童／生徒の人生に関われるから」であった。志望度の高い者はこうした理由によって志望していると考えられる。

中程度ほどではないが正の相関関係を示したのは G「教科の専門性を活かせる職業だから」，H「安定した職業だから」であった。これらの理由は上記 A～E に比べると教職を志望する重要な理由とはならないようである。興味深いのは，１年生においては志望度が低い層も安定した職業であると認識している点である。この認識は２・３年生でも保持されるが，４年生ではそうした認識が小さい層も見られるようになる。４年生においては就職活動で他業種についても知ることで，教職との比較軸が生まれているのかもしれない。また，教科の専門性が活かせるという認識が学年を通じて，あまり教職志望度と関連していない点も興味深い。この場合，教職志望の理由を教科教育に関すること以外の点に見出している可能性も，単純にそもそも教科専門性を教職でどのように活用できるかを見出せていない可能性も考えられる。この点は，さらなる検討によって追究していく必要がある。

また，志望度とほぼ無相関に近かったのが，F「顧問として部活動の指導をしたいから」と I「比較的楽な職業だから」であった。F の部活動指導については，スポーツ科学科のような特定の学科をはじめ，部活動指導を強く希望している者は志望理由として強いが，そうでない者は志望度が強くても志望理由として当てはまらない。バブルチャートにおいても，認識が二極化している様子が読み取れる。I については，教職志望度に関わらず，どの学年も基本的には比較的楽な職業とは認識していないようである。ただし一方で，わずかではあるが，志望度の強い者であっても，比較的楽な職業と認識している者がいる点には留意したい。

最後に，志望度と負の相関関係を示したのが，J「資格として役に立つかも知れないから」と K「親などに免許取得を勧められているから」である。これら２つの理由は共通して，１年生時点ではほぼ無相関を示しているのに対して，２年生以降で負の相関関係を示している。１年生段階では，資格としての魅力や親からの勧めが必ずしも志望度の高さにつながるわけではないことが読み取れる。一方で２年生以降では，資格としての魅力は寧ろ志望度の低い層に見られており，これは４年生において顕著である（一方で４年生は資格としての魅力とは別に強く教職を志望する者もおり，二極化している）。また，２年生以降で教職を強く志望する者は，親に勧められたからではなく，自分の意志で教職を志望していることも考えられる。J や K の理由は，教職としての魅力と資格としての魅力のどちらを感じているかによって，認識が異なるものであると考えられる。こうした重視する魅力の相違によって教職課程での学びとどのような関連があるかも，今後検討していきたい点である。

3.7 志望する「その他」の理由

最後に Q3【志望の理由】で L（その他）を選んだ自由記述に触れておきたい。L（その他）は他の理由に加えて選択することができたものであり，すでに検討した A～K と排他的なものではない。また L（その他）を選んで自由記述をしたのは全学科を通じて 56 名（全体の 1.7%）に過ぎず，全体の傾向を表すというものではない。しかしわざわざ記述するということは何らかの強い想いの現れであると考えられ，触れておく価値はあると考える。

56 名中 38 名（68%）が志望度４ないし５のコア志望者であった。やはり主として強い志望度を持った学生によって自由記述はなされている。

まず最も直截なコメントは教育学科生３名，英語学科生１名，法律学科生１名の「子どもが好きだから。」というものである。この他にも教育の本質に関わるようなコメントとして「人との関わりをより深く感じて欲しいし，自分自身考えていきたいから。」「教師もまた子どもに教わり成長できる。」「子供に道徳心を教えたいから。」「子どもに家以外での居場所も作ってあげたいから。」（以上，教育学科）などが見られた。

教育学科生の「教科のほとんどが好きだから。」「小学校から今まで学んできたことを全て活かせる職業に就きたいから。」，書道学科生の「書道を普及したい。」「書道を続けたいから。」，スポーツ科学科生の「今している競技の終わりが来たらセカンドキャリアとして教員になりたいと今は考えています。」などは学科に特徴的なものと言える。

自分が生徒として出会った教師からの影響に言及したものとしては，「良くしていただいた先生がいて私もこの

ような先生になりたいと思ったからです。」(中国文学科)「高校の養護の先生に悩んでいるときにとても助けられた。自分も悩んでいる人の力になれたらいいなと思った。」(スポーツ科学科) などが見られた。一方で「無能な教師よりはマシな授業ができると思ったから。」(日本文学科) といった辛辣な表現もあった。ただし，広瀬・久保田 (2009) の調査においても「熱意の不足している教師が多い」に約６割,「教え方の下手な教師が多い」に約８割が同意すると回答しており，教師に対して辛辣なイメージをもつのは，本学でもこの学生に限ったことではない可能性も残される。

その他,「出身県に戻り，出身県に貢献したいから。」(英語学科),「地元で働くには小中の免許が必要だから。」(教育学科) という地元への貢献を挙げたものが２件あった。また,「公教育における人材育成の比重が大きい余りに，無意識的に子どもの自己形成が軽視されがちになってしまっていることへの問題意識(以下略)」(教育学科),「商業科教育の問題点を改めて取上げたいため」(経営学科) というコメントには，教育の現状に対する批判的意識が伺えた。

最後に「生徒が，自分の教える教科に興味を持ってもらえる絶対的自信があるから。」(英語学科) というコメントが一際目を引いた。この学生の教壇での活躍を期待したい。

4. まとめ

今回のデータ分析から再確認できた傾向，また新たに得られた知見の主なものを整理すると以下の通りである。

（１）本学では全学科を合計して１学年あたり 450～460 名ほどが教職過程に登録するが,その中の 270～280 名程がコアな教職志望者のようである。

（２）コアな志望者数で見ると比率が多いのは教育学科，スポーツ科学科，書道学科の順である。

（３）志望のきっかけとして教員の影響がある場合，高校教員の影響が最も強いが，教育学科に限っては小学校教員の影響が最も強い。

（４）担任教師からの影響，授業担当教師からの影響が強いが，学科によっては部活動顧問の影響が強い。

（５）全体としては入学後，教員志望度はやや強まる。その場合，教職に関する授業の，次いで教科教育法の授業の影響が強い。

（６）志望度が弱まるのは，自分の能力に不安を感じたり,自分の性格が教職に向いていないと感じたりして，将来の選択として教員以外が視野に入ってくる場合のようである。

（７）教員を志望する理由として最も強いのは「人と関わる職業だから」と「教育は重要だと考えるから」という教育の本質に関わるものである。

（８）「教員免許は（単に）資格として役立つから取得する」という実利的な考えは，むしろ志望度が弱い層に強く，志望度が強い層は教職そのものに魅力を感じているように思われる。

（９）志望度と志望理由の関連については，全体的には学年を通して類似しているが，教職課程履修前の１年生，履修中の２・３年生，就職活動を控えた４年生で若干の異なりを見せる。

今回の分析は横断的調査によるものであるため，学年による推移傾向は，あくまで推測の域を出ない。今後の縦断的調査によって，個人内の変動に着目した教職課程での軌跡を追うことができ，どういった認識の層がどういった教職課程生活を送るかの詳細なモデル構築も可能となってくるだろう。また，希望免許教科による相違についても，分析し次第報告したい。

謝辞

本調査の実施実務に当たってくださった教職課程センター事務職員の方々，１年生のデータ入力をしてくださった学長室 IR スタッフの方々，そして回答してくださったすべての学生諸君に心より感謝いたします。

引用文献

姫野完治　(2013).　『学び続ける教師の養成—成長観の変容とライフヒストリー』　大阪大学出版会

広瀬 信・久保田真功　(2009).　教職課程履修学生の教職意識調査—本学部学科間比較を中心に　『富山大学人間発達科学部紀要』, *3*(2), 9–18.

島田直哉　(2015).　「教育課程論」受講者における教職課程履修に対する意識　『東海学園大学教育研究紀要』, *1*, 40–52.

高橋 優・田中正一　(2017).　教職課程登録者の意識と適応—教職課程意識調査（平成 26–28 年度）より　『埼玉工業大学教養紀要』, *34*, 9–17.

若松養亮　(2012).　教員養成学部生における教職志望の変動要因　『滋賀大学教育学部紀要(教育学科)』, *62*, 87–97.

若松養亮・古川津世志　(1997).　教員養成学部学生における教職志望意識の変化に及ぼす要因の検討　『進路指導研究』, *17*(2), 19–29.